

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100388		
法人名	社会福祉法人 山清福祉会		
事業所名	グループホームほほ笑み		
所在地	熊本市東区戸島西5丁目5-26		
自己評価作成日	令和2年1月9日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和2年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①建物は開放感のある作りとなっている。②同法人が運営する保育園と連携し、交流会等の行事を定期的に行っている。③スキルアップ制度の活用でスタッフの資格取得支援あり。これにより有資格者が増えている④産休、育休、有給の取得ができるような人員配置を行っている。⑤来年度より新たな人事制度を導入し、スタッフの賃金改善、労働条件の明確化に取り組んでいる。これによりスタッフの労働意欲向上やスキル向上を期待している。⑥スタッフに対して研修の機会をもうけている。⑦他のグループホームと情報交換を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地やスーパー等が近く、周囲に広い畑もある静かな環境に立地し、同一敷地内には二つの保育所があり、定期的な交流で利用者の日常に刺激を与えている。介護度の高い利用者が多いが、残された能力が低下しないようできる事の手助けをし、語り掛けを多くして笑顔を引き出すケアを心掛けており、ホームでの暮らしがリラックスしたものであるよう努めている。また、職員の外部研修受講や資格取得等スキルアップの支援制度があり、サービスの質の向上に繋げている。家庭の事情等により勤務形態にも配慮があり、働きやすい職場であることが伺えた。また、職員間や利用者とのコミュニケーションもよく図られており、当日はリビングから明るい会話や笑い声が聞かれた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとにケアの方針を決め、利用者様のケアを実施している。	ホーム開設時に作成した「環境・愛情・清潔・安全」への思いを込めた4つの理念がある。管理者は、理念はケアの考え方を統一する為の指針として、理念に沿った介護計画を作成し、ケアのやり方についても理念に沿って考え、実践していくことを目指している。	現状ではまだ職員への理念の周知が不十分として、管理者は「ほほ笑みの理念と考え方について」まとめ、具体例を示して職員への浸透を図っている。今後の取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当法人の保育園との交流会や自治会活動の参加、中学校の交流会、地域住民の会合場所提供を行っている。	自治会の清掃活動に管理者が参加したり、町内の集会場所として和室を提供するなど、地域との交流に努めている。隣接の保育園とは餅つきや節分など季節行事に合わせた交流が行われている他、地元中学生や体操のボランティア等も訪れるなど、地域の方と利用者とは触れ合う機会が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター主催の「認知症家族の会」の際、当事業所の和室が活用されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所でのイベントや入退所の報告、運営状況等を報告している。また出席者との意見交換も行っている。	運営推進会議は、自治会長・社協・包括と家族で構成され、2か月に一度開催されている。運営状況や事業報告と合わせて利用者の暮らしぶりが写真で紹介されており、活発な質疑応答が議事録に記載されている。避難訓練を推進会議と合わせて行ったり、委員にマッサージを体験してもらった取り組みなども見られた。	遠方などの理由で会議に参加できなかった家族には、会議録を送る事でホームの活動状況が伝わり、理解が深まる事が期待できる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際、地域包括支援センターの参加や、事故発生時の連携、必要時の相談、報告確認の作業を行っている。	市行政への質問や疑問点などは、その都度「質問票」で問い合わせしており、後日、市担当から電話で回答があっている。地域包括支援センターからは運営推進会議への参加があり、包括主催の「認知症カフェ」にも参加するなど、連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束に関するマニュアル」の中で介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を明記し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	3か月に一度、「身体拘束予防委員会」を開催している。「転倒事故検証と予防策」についてや、「不安定症状への対処法」等が話し合われ、言葉による拘束の事例についても検討している。全職員が身体拘束の弊害について学び、ケアの実践に活かす努力が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングでの話し合う機会をつくり、虐待への理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やミーティングの際に権利擁護について意見交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所時に説明を行い、理解が得られる様に十分に時間を確保し一方的な説明にならないよう留意している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	国保連の苦情対応ポスターを事業所内に掲示している。また管理者が利用者やその家族と交流する機会をつくり現状把握に努めている。運営推進会議の際に意見交換を行っている。	運営推進会議の一か月前に、家族に会議への参加を呼びかけている。多い時は5家族の出席が得られており、家族の思いや要望を聞く機会としている。面会時には、本人の暮らしぶりを伝え、遠方の家族には毎月の請求書送付時にお便りを添えて家族との交流が図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、職員間で意見交換をし、反映させている。随時、相談や意見の収集も行っている。	職員が働きやすい職場環境作りに力を入れ、資格取得支援・有休の取得・賃金改善等に取り組んでいる。これにより、職員の業務に対する意識向上に繋げている事が伺えた。月一回のミーティングではケアのやり方と業務の見直し等について話し合っており、職員からの提案は業務に反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士に専門的な指導を仰ぎながら、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自のスキルアップ支援制度を策定し、介護に関する資格取得を支援している。また外部研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会やその他研修参加により、情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護スタッフへの情報収集を行い現状把握するとともに、利用者や家族との交流を普段から行いニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護スタッフへの情報収集を行い現状把握するとともに、利用者や家族との交流を普段から行いニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前や初回面談時に聞き取りをおこない、現状とニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や日常動作について、出来ることは利用者自身にしてもらったり、共同で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望を聞いて、必要に応じて家族に協力をお願いしている。(外出、差し入れ、外泊、買い物等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に安心してお話ができる環境作りをしている。	山登り仲間だった人や仕事上の関係者などの来訪がっており、馴染みの関係継続を支援している。家族との外泊に出かける人やマッサージを受けている人、訪問理美容の人との交流や触れ合いを楽しみにしている利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、トラブルの事前回避に努め、相互理解の促進を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時に何かあれば相談にのる旨の説明を行っている。また必要に応じて情報書の作成も行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、サービス担当者からの聞き取りによる情報収集、及び入居後の職員の気づきによって意向や希望を把握している。	入居前の生活歴と入居後の職員の気づきによって思いや意向の把握に努めている。困難な場合は表情・仕草等で喜怒哀楽を察知している。リビングや入浴時の語りかけにより、会話を増やす事でどういう事をしたいか、その日をどう過ごしたいか等を見極め、一緒に楽しむ支援が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、サービス担当者からの聞き取りによる情報収集、及び入居後の職員の気づきによってこれまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族、サービス担当者からの聞き取りによる情報収集、及び入居後の職員の気づきによって1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、サービス担当者からの聞き取りによる情報収集や、定期的に行うミーティング時に介護方法の検討を行いそれらの情報を反映させて介護計画作成にあたる。	介護計画作成にあたり、利用者がリラックスした生活を送れているかどうかを意識して、個人ファイルを活用し、モニタリングとアセスメントを行っている。季節によって体調変化もあるので、病院との連携で体調管理にも配慮したプラン作成を心がけている。状態が変わった時は家族に相談しながら随時、プランの見直しを行い、利用者が落ち着いて暮らせる支援を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事や入浴介助は本人のペースに合わせて変更を行っている。また買い物や外出の希望がある際は可能な限り希望に添えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元中学校、併設の保育園児との交流会をおこなっている。また地域住民の方と畑作りを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から月1の往診があり、急な体調変化は怪我の場合はその都度電話相談を行い対応している。また本人や家族の希望に応じて専門医に受診もしている。	協力病院をかかりつけ医として、月一回、往診を受けている。変化があれば、協力病院の看護師や医師に相談し、必要に応じて家族にも同行を依頼し、適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所に看護師がいないため、必要時は協力病院の看護師、医師に相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時は定期的に連絡を行っており、カンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院と本人、家族を交えて定期的に話し合い方針を考えていく。	入居時に看取りはしない方針である事を伝えて了承を得ている。終末期が近づいたと判断された場合は、準備期間を多くとって医師と家族との連携を図り、カンファレンスをして方向性を決めている。ホームは家族と病院をつなぐ役割をもって最善の看取りが出来るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防書に講習を依頼してAEDの使い方、心肺蘇生法、異物除去、応急処置に仕方等について学ぶ機会をつくっている。利用者の突発的な症状については24時間、看護師や医師の指示を仰ぐことができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施しており、昼夜の非常時に備えている。	職員が、消防署主催の避難訓練の研修に参加し、それを基にホームの訓練を、年2回実施している。今年度は、一回は利用者もホームの外庭まで避難しており、二回目は図上訓練で、3パターンでシミュレーションし、迅速に避難できるように避難誘導の全体像の確認を行っている。なお、火災発生時の連絡は、職員とともに運営推進会議委員にも届くことになっている。	車椅子の利用者が7名いるという現状の中で、非常時の近隣の協力体制について検討しておくことも必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や研修報告の機会を作り、人格の尊重やプライバシーについて学ぶ機会をもうけている。	日々のケアにあたり、身体拘束や虐待になるような行為を行っていないか、全職員が18項目の「振り返りシート」により、3か月に一度、自分のケアのあり方をチェックしている。排泄時・入浴時には、羞恥心に配慮し、人格を尊重したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の理解力やペースに合わせて会話をし、自己決定しやすい雰囲気をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等大まかなスケジュールは用意しているがレクリエーション参加や日中の過ごし方、就寝時間などは各入居者のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は各利用者が自由に選択したものを着用している。自力でできない利用者については職員が利用者の好みに合わせて選択している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理前の下準備や下膳後の片づけ等を入居者と一緒に行っている。また行事食などを利用者とスタッフ共同で調理を行っている。	食事は三食外注で提供されており、メニュー・栄養価・配膳された写真付きの週間献立表がある。ローテーションでその日の担当職員が味付けなどを加味するなど、利用者がよりおいしく食べられるような工夫が見られた。他に、利用者の好むめんたい・ふりかけ・デザート等も常備し、利用者の食の進み具合にも気配りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の好みに応じてジュースや漬物、ふりかけ等を準備している。また本人が食べやすいように食事形態をその都度検討をしている。必要に応じて栄養補助食品を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日2回の口腔ケアを実施している。また必要に応じて歯科医に相談を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の生活リズムにあったトイレ誘導を行っている。また常時オムツの方も排便を促すためにトイレ誘導を行うことがある。	排泄が自立している利用者は一名。他の人は排泄チェック表と利用者の仕草等によりトイレ誘導を行っている。リハビリパンツのみやと尿取パット併用など、一人ひとりの状況に応じ対応しているが、季節によっても排泄状態が違う事も考慮し、その人に合った排泄用品をその都度検討し、変更している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の水分量を気をつけている。便秘については医師と相談し、必要に応じて整腸剤や下剤をしようしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定表に沿って実施するが、利用者の気分や体調によって変更することもある。	週2回の入浴日がある。機械浴を必要としている利用者は6名であるが、全員浴槽に浸かり入浴の心地良さを体感してもらっている。入浴中は、昔の思い出話を語る人もあり、入浴の楽しみとなっている。お湯は、その都度入れ替え、清潔保持にも配慮が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるような環境やケアを提供している。また必要に応じて眠剤等の処方医師や家族と相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用しており、更に薬の内容と効用に関する資料を利用者台帳に加えている。必要に応じて医師や薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の能力に応じた作業、活動を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所のスーパーの買い物を行っている。畑の水やり、草むしり等も実施。希望に応じて銀行や公的機関への外出も行う。	車椅子利用者が多くなり、全員での外出が難しくなっている為、希望に応じた個別対応でスーパーへの買い物や銀行などに出かけている。日常的には、同一敷地内の保育園の園児たちとの交流や、共同の畑の草取り等で、外の空気に触れ、気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際はレジで支払いを手助けしながら一緒に行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って家族や友人に電話をかけるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けになった天井や天窗、そして床暖房など採光にや換気に配慮した設計になっている。また和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随時に確保してある。	リビングを中心に、周辺には熱帯魚の水槽や本立等が配置され、長い廊下には、壁掛け空気清浄器や太陽光発電パネルが掛けられている。居室に沿って伸びているベランダは広く陽当たりが良く、洗濯物干しに最適である。リビングはオレンジ色の穏やかな採光で、3匹の猫が自由に歩きまわっており、落ち着いた温かい雰囲気を感じられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっており洗面台やクローゼット等がついており、落ち着いて過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のある居室やフローリングの居室があり、拭きだし窓から中庭・ウッドデッキへ直接出られるように工夫している。各教室には好みの家具や道具がおかれている。	居室は、陽当たりが良く窓の向こうには広々とした畑があり、開放的である。夫婦二人の写真やカレンダーがある部屋、おしゃれな加湿器がある部屋、きちんと整理されたクローゼットが置いてある部屋等、家族の思いが伝わる部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人間関係や趣味と合わせて、能力や理解力も考慮して食堂の席や行事の際のグループ分けなど工夫し、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように努めている。		